

# 瑞岩寺報

2014.08.01  
(平成26年 葉月)

## 【お盆号】

### お盆総合案内

#### お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。

【期日】8月2日(土)

【時間】午後1時～

【お盆の供養料】

◎先祖供養塔婆 5,000円

◎新盆供養塔婆 10,000円

【内容】檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

◎新盆塔婆供養

◎先祖塔婆供養

◎『般若心経』

◎御詠歌

法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

粗品がございますので出欠席のハガキを返信ください。

#### お盆棚経参り

【期日】8月3日(日)～8月12日(火)

例年通り各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始します。住職が早朝から夜まで約320軒の檀家さんを回りお棚経をあげます。お布施は

結構ですので、どうしても都合の悪い場合は都合のよい日を返信ください。短い時間ですが、ご家族と一緒に参りをお願い申し上げます。

#### お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります

7月16日(水)～30日(水)	東京・神奈川・埼玉南部
8月3日(日)	太田市外(群馬県外・前橋・館林地区)
8月4日(月)	太田市外(足利・桐生地区)
8月5日(火)	太田市内(太田地区)
8月6日(水)	萩原地区、その他
8月7日(木)	七日市、落内、唐沢地区
8月8日(金)	丸山、清水、反丸地区
8月9日(土)	矢田堀地区
8月10日(日)	矢田堀地区
8月11日(月)	(予備日)

【時間】〈早朝〉6:00～9:00／〈午前〉9:00～12:00／〈午後〉12:00～15:00／〈夕方〉15:00～18:00

#### お墓そうじ

瑞岩寺にお墓のある方へのご案内です

【日時】7月27日(日) 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。◆自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

#### Attention!!

以下の点に留意ください。

#### 【お盆法要について】

◎お盆供養塔婆について、「必要」・「不要」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月3日以降に塔婆を受け取りに出てください。

塔婆供養料の振込みを同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

#### 【市内・県内外の檀信徒の方に】

市内・県内外の方は同封の振込用紙

をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

#### 【お盆参りについて】

◎お盆参りについて「必要」・「不要」をハガキに記入してください。

◎「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

◎「不要」ならば「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

「必要」だけ日時が合わない場合は、希望日をお書きください。調整いたします。

返信期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決めお参りします。

返信葉書は7月31日必着です。

#### 【永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ】

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

#### 【ペット供養墓関係者の方へ】

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日時】8月2日(土) 午前10時より

【お盆のペット塔婆供養料】4,000円

◆強制ではありませんので、ご供養し

## 津軽三味線奏者

## 「吉田兄弟」さん

## インタビュー

## 住職

本日は、お忙しい中お時間をいただきまして、ありがとうございます。9月の寺子屋ライブに先行して、お二人にいろいろお話を聞きしたいと思っています。

## 吉田兄弟(兄・良一郎・弟・健一)

はい、よろしくお願ひします。

## 住職

まず、お二人が津軽三味線を始めたきっかけから教えていただけますか？

## 良一郎

僕が5歳のとき、近所の友達がエレキトーンを習っていると聞いて、自分も何かやりたいと両親に頼んだんです。そうしたら、父から「三味線をやれば？」と言われて。それがきっかけですね。5歳ですから、三味線がどんなものか全く知りません。でも、習い

事ができるならいいと思って、「やる！」と(笑)。あとで聞くと、父は

若いときに津軽三味線のプロを目指していたことがあったそうで、父はその道を断念したけれど、自分の夢を僕たちに託したんですね。

## 住職

健一さんは？

## 健一

僕が始めたのは、その二年後です。父が兄の稽古の送り迎えをしていて、それに僕もくつついて行っていました。そのうち「どうせ稽古場まで行くなら習ったほうがいいんじゃないか」ということになって。

正直に言えば、最初はお菓子とか、おもちや目当てに通っていた感じ。兄と一緒に練習もできたし、習うことが自然だったんですね。

## 住職

お二人は登別のご出身ですね。三味線を習うのはポピュラーなことだったのでしょうか？

## 良一郎

小学生から三味線をやっているのは、北海道中探しても僕たちくらいだったと思います。

## 健一

三味線には子ども用サイズがないですから、あまり小さいと三味線が持てないんです。それで小学校の高学年、10歳くらいから始める子が多いんですね。5歳からというのは本当に稀だったと思います。

## 住職

5歳といえば、幼稚園・保育園の年長さんですよ？

## 良一郎

はい。明らかに三味線のほうが大きかったですね。

## 住職

お父さんは厳しく指導されたのですか？

## 良一郎

1日1回でも三味線に触れ、間を開

けるなどというのは言われていましたね。練習もだんだん厳しくはなるんですが、怒られたというイメージはあまりないです。どちらかといえば、「三味線をやればおもちやを買ってもらえる」くらいの感覚で。僕らもそれを楽しんでいたと思います。

## 健一

小学校に入った当たりから、三味線をやっていることに違和感を感じるようになりましたよね。友達に三味線を習っていると、何それ？ そんなじくさい、ばばくさいものやってるの？ って反応が返ってきて、「あれ？」と思いました。確かに、誰も習っていないんですよ。みんなピアノだったりエレキトーンだったり、スポーツだったり。それで高学年くらいでやめたいと思うようになりましたね。「中学校に入ったらやめよう」って二人で話したこともあります。

## 住職

そういう時期もあったんですね。

## 健一

でも、年齢とともに僕たちの三味線が上達するので、父はどんどん燃えていくわけです。中学に上がるタイミングで、どうしても津軽三味線をやらせたかったです。父が僕らに習わせ

たかった津軽三味線の家元が札幌にいらっしやいまして、当時、家元は子ども弟子は取っていませんでしたが、父が何度も通ってお願ひして、ようやく「おいで」と言ってくださったんです。

**良一郎**

僕たちの本意とは違う方向にレールが敷かれていったわけですが、でも、家元との出会いが、ある意味僕たちの人生を変えたと思います。津軽三味線を知ったときは衝撃的でした。今まで僕たちが習ってきた民謡の三味線とはまったく次元の違うものだったんです。構え方もバチの持ち方も、弾き方もまったく違います。それに、教えてもらうフレーズがとても難しい。今までのテクニクではついていきませんでした。

**住職**

津軽三味線には、譜面がないそうですね？

**良一郎**

ありません。津軽三味線はアドリブなので、先生がテープで録音したものをくれるんです。それを耳でコピーして、フレーズを覚えていきます。難しい、細かい。でも、その難しさにはまっすぐにいいますか……。

**健一**

大抵の民謡は前奏の長さが決まっているのですが、津軽の民謡だけは前奏部分を短くも長くもできるんです。よく知られている「津軽じょんから節」にも歌はありますが、歌い手さんが（前奏を）長くやっていますよと言えば、「じゃあ2分やります」というふうに調整します。それが僕たちの曲弾きスタイルの始まりでもあります。僕たちのやっている「津軽じょんから節」も、あくまで前奏部分を長くしているだけなんです。しかもアドリブです。一人ひとり全部違います。100人いれば100通りの「津軽じょんから節」があります。津軽三味線の大会では、それを競うわけです。

**良一郎**

今、大会の話が出ましたけれど、毎年5月のゴールデンウィークに弘前で津軽三味線の全国体会有るんです。家元の勧めでそれに出場することになりました。

**住職**

中学生で全国大会ですか。

**良一郎**

僕が中学1年で、健一が小5のときです。団体戦の形で二人で弾きました。出場して驚いたのは、ほかに子ども

もがいたことです。全国大会レベルの子がいて、優勝する人もおじいちゃん、おばあちゃんではなく、20代、30代のお兄さんたちでした。カッコいい、こうなりたいという目標がそこにいたんです。僕たちの三味線に対するイメージが変わりましたね。

**健一**

僕たちの気持ちを知ってか知らずか、いいタイミングで次の転機が訪れるみたいなのがあるんですよ。家元と出会い、この大会と出会ったことは、今、僕たちがここに存在するためにマストだったと思っています。

**住職**

大会もお二人の転機だったのですね？

**良一郎**

初出場の翌年から個人戦に出るようになったんですが、ここで初めて二人にどっちが上でどっちが下と点数がつかようになるわけです。僕は兄だから負けられないと思っていましたが、最初の大会は僕が負けました。これがすごく悔しくて。それからは練習に打ち込むようになりましたね。

**健一**

大会に出ることで、自分たちが全国

的にどの辺のレベルにいるかがよくわかりました。それで「上を目指す」という、今までなかった感覚が芽生えてきたんです。たった4分間の演奏ですが、失敗は許されません。大会に出はじめからデビューまで10年くらいありますが、その期間は全部、大会のために費やしていましたね。

**住職**

それはすごい！

**健一**

三味線の世界はどこか年功序列的なところがあって、40代、50代くらいでようやくCDを出せるかなという感じだったんです。でも、この大会でトップクラスになるとCDが出せます。それが宣伝のツールになるわけですよね。今はインターネットとかいろいろありますけれど、当時はほかに宣伝できるものはありませんでした。僕たちは中学生のときに「この世界で飯を食っていこう」と決めたので、どうしてもここで結果を残す必要があったんです。一番上のクラスで優勝するというのが自分の中に課せられた目標になりました。

**良一郎**

本当にそうですね。当時、大会にはAからDまで4つのクラスがありました

て、Dクラスから始まって、少しずつレベルを上げて、4年後ぐらいにはAクラスに出ています。クラスの中では最年少だったんですが、それもよかったですね。地元の新聞やテレビが「吉田兄弟、大会入賞」などと紹介してくれて、それが広がって自然とお仕事の話をもらうことができました。「パーティで演奏してほしい」とか、「結婚式で演奏してほしい」とか。その当時。土日は北海道中を演奏でまわっていましたね。

### 健一

本当に休みがなかったですね。働きながら学校に通うような生活で。まあ、バイトにはことかかなかったです。普通にバイトしている子よりは、ちよつとお金があったって感じでしたよ。

### 住職

お父さんがマネージャーのようなことをなさっていたわけですね。お父さんに感謝ですね。

### 健一

はい。もともと三味線を始めるきっかけも父でしたし、なにせ三味線はお金がかかる楽器ですから、相当な出費だったと思います。我が家には車がなくて、その当時はなんでもないだろう

と思っていました。考えてみれば、楽器にこれだけお金をかけていたら買えるわけがないです。三味線1棹で100万円以上しますし、着物やら、バチやら、しかも2人分となると、一体、収入の何割をここにかけたのかと思いますよね。

### 住職

お父さんの情熱なんですよ。

### 健一

そうですね。どちらかという芸術的な父親で、会社から定時で帰って来て、僕らの三味線を聴きながらお酒を飲むというのが楽しみという感じでした。

### 良一郎

僕らのソコの練習を聴きながら、父が審査員の役といいますか、意見をくれました。時には大会で緊張しないようにと、近くの公民館を貸し切って、父が審査員と司会者をやって、「何番、吉田健一」みたいに大会の予行練習をしていたこともありますね。公民館といっても結構大きいんですよ。椅子が300くらいは入ります。そこにたった3人で、ずっと演奏して、録音して、聴いて、演奏して、を繰り返すんです。

### 住職

そこまでやるんですね。すごいです。

### 健一

ここまでやって入らなきゃおかしいですよ（笑）。「あの頃は楽しかった」と両親は言いますが、やっぱり大変だったろうと思います。

### 良一郎

父は僕たち以上に燃えていましたからね。父は、津軽三味線が「大の大人が一生かけてやっていい楽器」だと思っていました。子どものころから何度もそれを聞かされてきたし、今は僕もそう思っています。やりがいのある楽器です。でも、それだけ難しい。練習を怠ることはできません。

### 健一

終わりはないですよ。自分の目標を達成すると、またその上を目指したくなる。その繰り返しです。津軽三味線には、高橋竹山さんという有名な演奏者がいて、全盲の方でしたが、演奏で人々を魅了していたんですね。渋谷にあった「ジャンジャン」というライブハウスで20代、30代の人の前で演奏したり、僕たちよりも先に海外で演奏して、全米ツアーまでやっている。父には昔から「三味線といえば、吉田兄

弟と言われるようにならないとダメだ」と言われ続けていて、ようやく、そう言われるところまでは来ていると思うんですが、じゃあ高橋竹山さんほどの功績が残せているのかといえば、まだまだ。この先に何ができるかが重要だなと感じています。

### 住職

さきほど練習は欠かさないとおっしゃっていましたが、1日どれくらいされるんですか？

### 良一郎

平均すれば、1日に2、3時間ですね。練習を3日空けると手元や、バチが当たる感覚なども鈍ります。30年やっけていても忘れます。楽器というのはそういうものなんです。

### 住職

私は学生時代にテニスをやっている、上達して自分の思ったところにボールが飛んでいくようになると、面白くてしかたがなかった。三味線もそうでしょうね。体の一部みたいななっているんじゃないですか？

### 健一

よく「あれだけ弾ければ面白いよね」と言われるんですが、まさにその通りです。うまく弾ければ弾けるほ



## ■プロフィール

津軽三味線の兄弟奏者。共に5才より三味線を習い始め、全国大会などで頭角を現す。器楽としての津軽三味線の魅力を強調することで若い層にリスナーを広げ、1999年アルバム「いぶき」でメジャーデビュー。異例のヒットを記録する。2003年の全米デビュー以降、欧米、アジア等、世界各国での活動や、国内外問わず様々なアーティストとのコラボレーションも積極的に行なっている。

また近年、良一郎は代表的な和楽器(三味線・尺八・箏・太鼓)による学校公演を中心とした新・純邦楽ユニット「WASABI」を結成、健一は若手トップクラスの奏者が集結した津軽三味線集団「疾風」をプロデュースするなど個々の活動の幅も広げ、伝統芸能の枠を超えて活躍している。

ど、どんどん体に入ってくる。客観的に見れば、指も異様に動いているわけですが、そのときは三味線と一体化しているんで、それすら感じていないですね。

### 良一郎

津軽三味線はテクニク的に本当に難しいし、細かいですから。でも、それをミセスにいくのが楽しいです

し、お客さんが細かいテクニクにワ  
ーッと反応して拍手をくれる。そのや  
りとりも面白いです。

### 健一

津軽三味線は「日本のジャズ」と呼  
ばれるくらい、お客さんとの対話がす  
ごくいいんです。今回の寺子屋ライブ  
もそうですが、お客さんとの距離がと  
ても大事なんですよね。近ければ近い

程いい。本当にそう思います。

### 住職

寺子屋ライブは、お寺の本堂ですか  
ら。丸見えです(笑)。

### 健一

お客さんは手元を見たいんです。ど  
んな指の動きをしているのか、バチの  
動きもそうです。一番いいのは300

人くらいのお客さんの会場ですね。アメ  
リカではライブハウス系のコンサート  
が多いので、広さ的にもお客さんとの  
キャッチボールがしやすいんです。

### 住職

アメリカのお客さんの反応はいかが  
ですか？

### 健一

アメリカのお客さんはライブに慣れ  
ていて、盛り上げるのもすごくうまい  
ですね。もともと三味線にもそういう  
バックグラウンドがあつて、静かに聴  
くのではなくて、いいと思ったらどん  
どん声を出したり、拍手をしたりして  
いいんです。

### 住職

演奏中に、声を出したりしてもいい  
んですか？ それは知りませんでし  
た。ちゃんと静かに聴かなくてはいい  
ないかと思っていました。

### 健一

いえいえ、逆です。津軽三味線は逆  
に僕たちをのせてください。のせ上手  
になつてくださって感じですね。も  
ちろん僕たちからお客さんに近寄っ  
ていきますが、お客さんがそれに返し  
てくれると、よし、また返そうとい  
うふうになるんです。

## 良一郎

演奏の最後の「津軽じょんがら節」のときに、必ず「いいところがあつたら拍手で応援してください」って皆さんに言うんです。それで皆さんが遠慮なく、バーツと拍手をくれるんですけど、津軽三味線というのは、本当はそういう楽器です。

## 健一

お客さんが盛り上げてくれると、もっと弾けという意味だと思って、どんどん演奏が延びたりするんですよ。逆に拍手がないと、今日の僕たちの調子悪いかと思っちゃう。そういうキャッチボールができたほうが面白いですね。

## 住職

寺子屋ライブでの演奏の見どころはどうでしょう？ やはり手元なども見て欲しいとか？

## 健一

そうですね。あとは兄弟間の呼吸なども感じていただきたいですね。それに生で聴くとわかると思うんですけど、演奏を始めると空気が変わるんです。近くに感じるほど感じやすいので、そういうことも感じながら楽しんでもらえると思います。

## 良一郎

ライブでは日本の伝統的な「津軽じょんがら節」も弾きますが、僕たちの作ったオリジナル曲も弾きます。その違いも感じていただきたいですね。伝統的なフリーズと革新的なフリーズ、その両方を聴くと、「津軽三味線ってすごいな」と思ってもらえると思います。日本の楽器はすごいですよ。そこを見てほしい、聴いてほしいですね。

## 住職

なるほど。オリジナル曲というのは、自由な感性で作られたものなので、私は、札幌でも保育園を運営しているんですが、北海道の方って、皆さんのびのびしているなと思うんです。津軽三味線は青森が本場。それを凌駕してしまうほどの活躍は、北海道で生まれ育ったお二人だからという気がします。

## 良一郎

それもあるかもしれませんね。僕たちが青森や東京の出身で津軽三味線を始めていたら、もつと型にはまっていたかもしれません。北海道で自由に演奏してきたから、今のこのプレイスタイルが生まれているんです。

実は、津軽三味線を弾く方たちは、皆さん前を向いて棹（さお）のほうを見ずに演奏するんです。もともと目の

不自由な人の「門付（人家の門口で芸を披露して金品を乞う）」がスタートなので、そういう意味で、本来は棹を見ないんです。

でも僕たちはそれを言われず、自由に演奏をしてきたので、どんどんリズムにのっていきますし、棹も見る、身体も揺らします。これも北海道だからだなと改めて思いますね。

## 健一

北海道はいろんなものが混ざっているんですよ。いろんな土地の人が来ているし、それに対して「ノー」というのがまずないんです。「いいっしょ、いいっしょ。なんも、なんも」と言いながら一緒にしちゃうみたいな。北海道の開拓精神があるのかもしれないですね。

師匠もそんな僕たちを全然止めませんでした。ご自身はちゃんと前を向いて演奏する方なのに。「お前たちは世代が違うんだから新しいことをやりなさい」と、行動や発言でメッセージをくれていたと思います。

## 住職

保育園の子どもたちを見ていても、自由にすればするほど、伸びるんですよ。北海道の開拓精神と言われましたが、これから三味線の世界もさらに開拓しようというお気持ちですか？

## 健一

その通りです。もちろん今までの良さもありますが、「新しい形の伝統ってなんだろう」って考えますね。いいところは残して、そうでないところは変えていく。変えることを恐れずに、「とりあえず、やってみよう」という感じですよ。いいか悪いかを判断するのは、聴いてくださるお客さんにお任せして、「これ、あまり好きじゃない」というのでも構わないんです。こちらが提示しなければ始まりませんから。僕たちは今年で15周年なんですけど、津軽三味線の持つている引き出しを、もうないというところまで開け続けることが僕らの役目じゃないかと思ってるんです。

## 住職

瑞岩寺も、460年の歴史があるお寺です。今年の4月に住職にならせていただいたんですが、私は、修行時代からずっと閉塞感を感じていたんですね。今、私たち若いお坊さんたちで集まってるいろんなことをやっています。インターネットを使ったり、本を出版したり、ライブや講演会をやったり。お寺の魅力を広めようと活動していますが、お二人と似ているところがありますね。ご先祖様がやってきた歴史を大事にしつつ、いいところは残し、さらに世のため人のため、今までお寺に

足を運んで来なかった人たちも、みんな来て楽しくやろうとね。

**健一**

傳承するものを残して、今にあったものを取り入れながら伝統を作る。それを続けていかないと、生き残るのが難しいと思いますね。守り続けた結果、残らなかったものもいっぱいあるじゃないですか。やっぱり今に生きるものにするのが大事だと思います。

**住職**

ダーウィンが「残るのは強いものじゃない、変化に対応したものだ」と言っています、その通りですね。

**良一郎**

実は、有名な「津軽じょんがら節」も、実はパターンが1つではないんです。津軽三味線には150年の歴史があります、その間に4つのパターンが生まれているんです。時代によって「これ同じ曲なの？」というくらい変わっています。もちろん、今の大会でも、僕たちより若い奏者は僕たちとは違う「津軽じょんがら節」を弾きます。僕たちの使わなかったフレーズで表現していますよね。たった十何年の間にもジェネレーションギャップがあって、津軽三味線はどんどん進化していくんです。そこが面白いですよ。

**住職**

みんなが面白がってどんどん進化するんですよ。

**健一**

今に合った形になるべくしてなるんでしょね。「門付」から始まった津軽三味線ですが、僕たちは目が見えし、それを再現することはできません。だったらいいところを残して自分たちなりのものを表現しようとするのは、僕は悪いことではないと思うんですよ。

**住職**

私も、お寺業界をそっくり変えようなんておこがましいことは考えていませんけれど、でも、今変えていかなかったら消えていくという危機感がありますね。

**健一**

そう、危機感ですよ。僕たちも15年やってきて、安心感を感じていた時期なんて一つもないです。三味線の世界を底上げしていかないと、廃れてしまいます。僕たちのマンパワーでどれだけ変われるかと思ってやってきましたけれど、限界は見えています。やはり、みんなの意識の底上げを図っていかねば変わらないですね。

**住職**

時代に合わせて変わることは大切なことです。話は変わりますが、外国人の方が「弟子にしてください」というようなことはありますか？ 海外の方が津軽三味線を評価してくださるようなことは？

**良一郎**

習っている人はけっこういます。僕の教えているカナダの人は、もともとギターをやっていたけれど津軽三味線にはまってしまって、「津軽三味線面白！ ギターの比じゃない」って。上達も早くて、2年半で「津軽じょんがら節」のソロ弾きができるようになってっっちゃってびっくりしました。

**健一**

海外でも、バンドで歌いながら三味線を弾くアーティストもいますね。今、僕たちは「MONKEY MARIK」というロックバンドとコラボレーションしているんですが、バンドのカナダ人兄弟も「なぜ日本のポップス界には、この三味線をもっと生かそうという人が出てこないんだろう。すごく疑問だ」と言っています。そういうことをもっと日本の方も知らなくてはいけないなって思います。

**住職**

津軽三味線がもっと広がっていくといいですね。

**健一**

CDが売れなくなってきましたが、それがチャンスだと仲間たちと話していますね。これからは安いものも高いものだけが多分残ります。高いというのには、価格だけでなく、生演奏や音質の良いものが残ると思うんです。和楽器は生が強いですからチャンスですよ。

**住職**

最近、ライブに行く人が増えているらしいですね。ライブの臨場感とか空気がいいと言う人が増えているんですよ。

**健一**

生で聴いて、実際の目で見ていいもの。しかもそれがカルチャーであるということが凄く大事だと思っています。僕たちも多分、音楽だけじゃなくて、プラスαで何ができるのかを考えています。その意味で、まさに神社仏閣での演奏というのは、そのプラスαなんです。寺子屋ライブのような企画をしていただけるのは、すごく有り難いですね。

住職

独特な雰囲気ですよ。ロウソク300個の中で、古澤巖さんに演奏していただいたり、中島啓江さんに歌っていただいたりして、鳥肌が立ちましたね。生で聴くとすごいです。

健一

それは場所と音と全部が一緒になって感じられるものなんでしょね。これまででも世界遺産のような場所で演奏させてもらう機会が何度かあって、その建物とか文化、歴史を知り、紹介することも僕たちにとってもプラスになります。「日本ってかっこいいよ。面白いよ。楽しいよ」と、思っていることをアウトプットするのは大事なことだし、すごくいいことですよ。

住職

余談ですが、神社仏閣というのは、美しい比率でできているんですよ。たとえば、神棚の大きさを存じですか？ 3尺6寸5分×2尺4寸で作るんですよ。これ、365日、24時間ということなんです。「365日、24時間この家を守りますように」って思いが込められているわけですね。お寺もそうです。「世の中が平和でありますように」っていう比率で作ってあるんですよ。

健一

楽器も美しいですよ。三味線って分解できるんですが、釘を一本も使っていないのに、ピシッとはまると抜けません。それがタンタングって特殊な振動を与えるだけで今度はスポツと抜けます。すごいと思うところがいっぱいありますね。

良一郎

ギターみたいにディストーションがかけられる「さわり」というのもあります。そこに触れないと全然音がブーンと広がらないのに、「さわり」にちよつと触れるだけで共鳴するんです。ただ、「三味線のディストーションがギターより先だった」というのは、海外から入ってきた話なんですよね。日本のすごいところを海外の人が調べていて、それを聞いて日本人がすごいと思う。そういう構図になっちゃっているんですよ。もうちよつと自国のことを知ってほしいと、オリンピックを前にしてすごく思いますね。

住職

東京オリンピックで声がかかるかもしれないですね。

健一

出たいですね。僕たちがというより、何百人規模の民謡集団とか、日本

を代表する文化人たちが集結するようなことになってほしいです。そのために発信していかなくちゃいけないと思っています。

住職

やはり私たちが日本人だっているというアイデンティティは欲しいですね。世界の人たちもそれを見たいんだと思うんです。さて、これが最後の質問です。来場する方へひとことずつメッセージをいただけますか？

良一郎

そうですね。今回は津軽三味線の音色とお寺とのコラボレーションということで、今まで聴いたことのない津軽三味線の音色を生で感じてもらえるいい機会だと思います。生の波動を体感しにいらしてください。

健一

このライブは僕たちにとってもスペシャルな空間になると思うし、すごく楽しみにしています。いいなと思った素直に反応してもらって、お客さんといろんなキャッチボールをしたいと思っています。

住職

ありがとうございます。当日を楽しみにしています。(合掌)

お知らせ

◆podcast

「HASEEの金曜は聴きこみ寺」  
(毎週金曜日好評配信中！)

最近、いつコンビニに立ち寄りしましたか？ 唐突な質問で困惑させてしまいましたね。普段の生活において、気軽にフラッと、もしくは何かがある日常です。でも、こまった時、何か心に引っ掛かる悩みが生まれた時、あなたはどうしていますか？ 当番組は、群馬県・太田市にある瑞岩寺の住職・HASEEさんの、実はコンビニの倍近くの数が存在するお寺に、何かあればフラッと立ち寄りしてほしいテーマに生まれました。「職場の上司と反りが合わず仕事が苦痛です」「子どもの好き嫌いが多くて困っています」「ミュージシャンへの夢を捨てきれず悩んでいます」「明日は初デート！ どうしよう！」etc. 人には言えない悩みも、日常のささいな疑問もHASEEさんにつけてみて下さい。何かと忙しく、悩みの日々。お耳をお貸し下されば、少し疲れたそんな心をHASEEさんがチャクリとホンワカ癒やします。【HASEEへの質問・お悩み相談は】  
kikikomi@zuiganji.com  
ペンネーム、年齢、性別とともにお寄せ下さい！  
・ iTunesでお聴きになる方には、  
↓ <https://itunes.apple.com/jp/podcast/komatta-shino-tingkikomi-si/id624486999?mt=2>  
・ PCで直接聴取される方には、  
↓ <http://podcast5.kiqtas.jp/kikikomi/>



すべての人に佛さまの智慧と慈悲を  
**宗教法人 慈眼山 瑞岩寺**  
 群馬県太田市矢田堀町388  
 TEL:0276-37-1231/FAX:0276-37-5535  
 E-mail:info@zuiganji.com  
 Website:http://www.zuiganji.com  
**ブログ** <http://ameblo.jp/zuiganji/>  
 ◇御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。  
 ◇お身体をお大切に、お健やかに暮らしてくださいませ。  
 ◆み仏さまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌